令和7年度 島根大学 社会教育士フォローアップ研修事業の概要

研修A





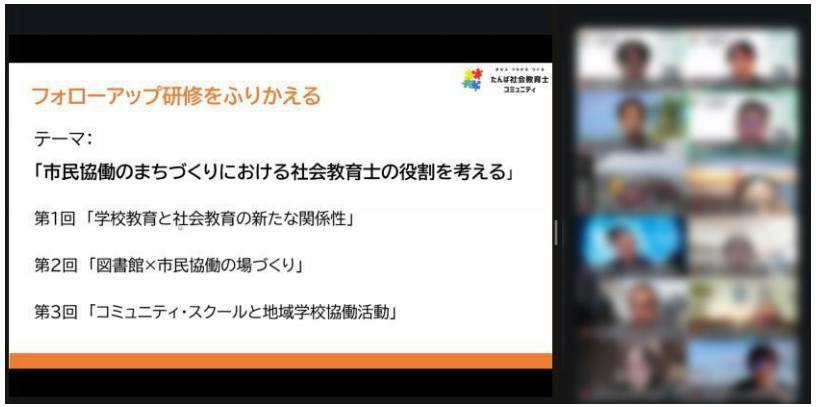


研修B



研修C





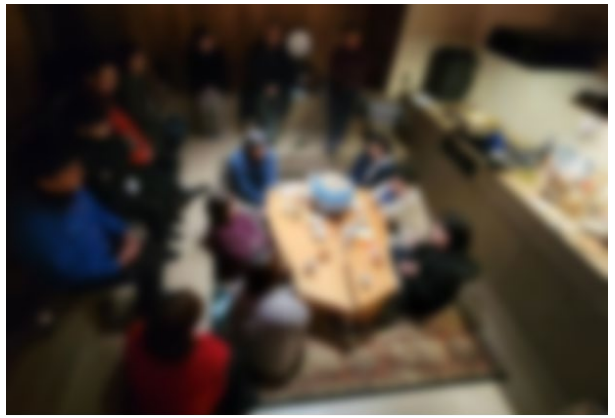
研修D

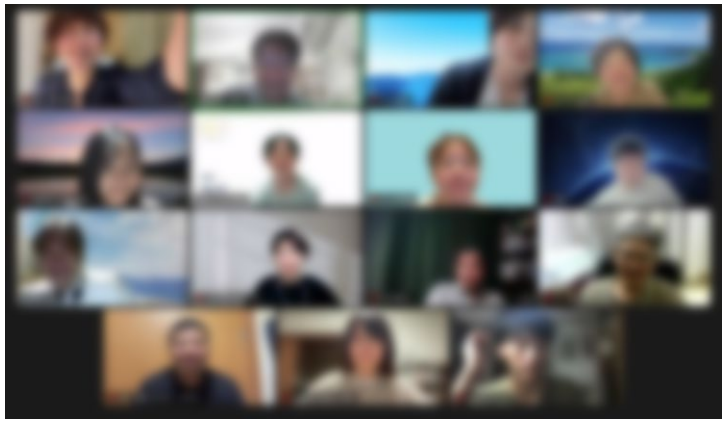


研修E









令和7年度 島根大学 社会教育士フォローアップ研修事業の概要と成果

企画・運営方法		研修の概要	実施日時 実施形態	周知方法	参加者数 4/5以上参加者数 修了者数（修了率）	成果
島根県教育委員会との連携 島根大学社会教育主事講習の修了者有志による研修企画・運営への参加	→	研修A 多様化する社会教育人材の協働による人づくり・つながりづくり・地域づくり ■ 社会教育人材の多様なフィールドでの活躍事例から社会教育人材の可能性を学ぶ。 ■ 基調講演：①井上昌幸氏（栃木県立真岡工業高校校長），②兼松佳宏氏（さとのば大学学長） ■ 事例発表：①「医療現場でやっちゃえ社会教育」「青原発！子どもと大人の相互育ち」等	①25/11/15-16 ②26/01/25 ①対面 ②ハイフレックス	島根・鳥取両県の社会教育課が運用する社会教育人材ネットワークでの周知 ＋ 島根大学社会教育主事講習の修了者SNSグループでの周知	→ 248名 10名 3名（1%）	民間を含む多様な領域での社会教育士の活躍を可視化
	→	研修B 地域と協働した学校の探究学習における社会教育士の役割と可能性 ■ 学校の探究学習と社会教育との関係について多様な実践者の事例から越境的に学ぶ。 ■ 1回目：「それぞれの校種・立場で語る地域連携と探究的な学び」 ■ 2回目：「探究を進めていくための学校の土壌づくり」 ■ 3回目：「探究し続ける大人であるには」	①25/11/04 ②25/12/12 ③26/01/07 全回オンライン		→ 16名 2名 1名（6%）	過去に実施された社会教育士の自主的勉強会を研修化
	→	研修C 市民協働によるまちづくりと社会教育 ■ まちづくりにおける社会教育人材の役割について丹波市を中心とした事例から学ぶ。 ■ 1回目：「学校教育と社会教育の新たな関係性から社会教育士の役割を考える」 ■ 2回目：「市民協働による図書館運営における社会教育人材の実践から学ぶ」 ■ 3回目：「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動における社会教育人材の実践から学ぶ」	①25/09/03 ②25/10/01 ③25/10/08 全回オンライン		→ 52名 24名 20名（38%）	研修終了後に講師と参加者によるSNSグループが生成
	→	研修D 社会教育人材の「なりわい」（生き方・暮らし方・稼ぎ方）探究コミュニティ ■ 人的資本・経済資本・社会関係資本等の観点から「なりわい」として社会教育を考える。 ■ 1回目：「「なりわい」とは何か」 ■ 2回目：「社会教育士としてのアイデンティティを考える」 ■ 3回目：「やることへの意味づけ」 ■ 4回目：「自分のなりわいを言語化する」	①25/06/30 ②25/07/02 ③25/07/07 ④25/07/09 全回オンライン		→ 23名 13名 5名（22%）	研修終了後に自主的な勉強会がオンラインで2回実施
	→	研修E リフレクションを通じた社会教育人材の実践力の向上 ■ 「おもしろがる力」を体感し，社会教育の自由を深め，AAR的な事業設計のあり方を考える。 ■ 1回目：「社会教育の自由と事業のつくり方」 ■ 2回目：「研修のふりかえり，現場で活かすために」	①26/01/20 ②26/01/23 ①対面 ②オンライン		→ 9名 9名 7名（78%）	県の社会教育関係の委員と連携し地域の研修ニーズを反映

【成果①：社会教育人材のフォローアップ研修コンテンツの開発】
- 島根県教育委員会や社会教育士との連携によるニーズの把握・反映
- 「社会教育×〇〇」の専門性を深化する研修の開発，実施
- オンラインを活用した研修実施実績（オンライン活用率100%）

【成果②：社会教育人材のネットワークの形成・拡大】
- 島根県・鳥取県との連携によるネットワーク強化
- 島根大学社会教育主事講習の修了者有志による研修企画・運営への参加
- SNSグループの生成や自主的勉強会など，自主的活動の生成

【課題】
- 研修修了率の低さ⇒フォローアップの周知，修了へのインセンティブ
- ネットワークのビジョンの不明確さ⇒関係機関・社会教育士との継続的対話
- 継続的なコミュニティへのさらなる仕掛け⇒コーディネート機能強化，大学事務の負担軽減